

VI. ジェンダーに配慮した普及のあり方

6-1 農業・農村開発における普及活動でのジェンダー配慮

6-1-1 世帯内のジェンダーと普及活動の接触

普及サービスの受け手は誰なのかをみれば、普及活動への参加は、ジェンダーによって異なり、特に女性は普及活動へのアクセスが限られていることが、今回の調査でもみられた。この問題分析と、それを克服するための提案を図示したものを後掲する。

(1) 普及者へのコンタクト

普及活動で見えていけば、男性が普及者とコンタクトをすることが多い。世帯内で見れば世帯主として第一義的に夫がコンタクトする責任を担っていると思われる。また、一家の代表として一人が対応すればいいという考え方があるため、どうしても夫が接触することになる。とくにセミナーや集会への参加によるコンタクトは、女性は夫が出席できない場合の代理として出席することが多い。

また、土地が男性の所有となっているため、普及者側も男性を対象とする。夫がコミュニティの指導者層にある場合、このような夫の役割が強化されるケースも見られる（モシ郡で見られたケース）。一方、その論理からいくと女性世帯主世帯は、コンタクト対象から外れるか、世帯主として女性でも同様にコンタクトするかのいずれかが考えられる¹⁾²⁾。

異性の普及員－農民間コンタクトは、タンザニア国においてはデリケートな問題であり、普及員の頭痛の種でもある。特に男性普及員と女性農民とのコンタクトには難しさがつきまとう³⁾。

さらに、男性に比べ、女性の教育程度が低いために、普及活動への参加が低いという要因もある（農牧省灌漑局）。

(2) 集会への参加

普及活動における集会への参加も、ジェンダーによって異なる。女性の多忙さや、「世帯主＝男性＝集会への出席者」という観念があり、女性は夫が出席できない場合の代理として出席することが多い。また、女性が集会で話しにくいという社会的・文化的障壁があり、

1) 前者の例では、強制的検査にくる保健普及員以外は、公的普及員とはまったく接触がない女性世帯主世帯（しかも世帯は全員女性）があった。
2) 後者の例では、多くの普及者のコンタクトがあった女性世帯主（モシ郡）がいたが、これは亡くなった夫がコミュニティ指導者層として種々の普及者とコンタクトしていたことを継承したものである。
3) 男性普及員が農家の妻に技術指導しようとして、夫から嫉妬を受け、夫の信頼を得て夫婦双方にコンタクトできるようになるまで、時間を割かねばならず困っているという不満がKATC受講者の男性普及員から出されていた。また、KVFPでも、マサイ族の村では、男性だけ行っても女性に口をきくことが許されないとの例がある。

女性の参加に限られる（省庁面接及び農村調査から）。

しかし、女性が集会での発言にまったく不自由を感じない例、男女双方で参加する例も見られる。教師の経験があり、人前で発言経験が豊富だとか、リーダーシップを持った経験がある女性は、集会での積極的参加が見られる。男女双方での参加を可能にしている要因は特定できないが、世帯内での男女の対等・相互協力的な関係が一因とも考えられる。

(3) 研修旅行への参加

村外への研修旅行も普及活動の一環として行われるが、女性は家をあけることができにくく、参加しにくい。しかし、前述した集会に積極的に参加していた女性農民は、研修旅行にも参加していた。

(4) 情報の伝達

普及者から夫が技術指導を受けたとしても、それが妻に伝達されるとは限らない（KADPの例）。近隣の人々にどう知りえた情報を伝達するかについては、男性は男性へ、女性は女性に伝達する傾向が見られる（モシ、サメ両郡）。しかし、男性が村落指導者層であれば、その責任から男女を問わず近隣世帯に伝達する責任が生じるので、ジェンダーにかかわらず（男女どちらでも家にいた人に）情報を伝達することも生じる。

6-1-2 女性のみ対象のプロジェクト（Women-only project）と普及

(1) 女性のみ対象のプロジェクトの長所

女性のみを対象とするプロジェクトは、女性のニーズに対応できる。生計向上、薪節約型かまどの普及による労働軽減、栄養改善、衛生向上などを女性のみを対象として実施することにより、効果的なプロジェクトが実施できる。また、女性が直面する問題を解消することができる。

女性だけで活動することにより、女性が参加しやすくなり、快適な環境で能力養成ができる。女性がグループ化されれば、社会で女性の姿が明確になる。社会における交渉力も手に入れられる。こうすることによって女性の各種資源へのアクセスが高まってくる。

(2) 女性のみ対象のプロジェクトの短所

「女性的」なメニューで活動することにより、従来の性別分担を維持強化することになる。女性グループとして囲い込むことにより、社会の主流から疎外し続けることができる。また、女性だけを特別扱いするとして、男性からの反発を買うことになる、といったことが短所としてあげられる。

6-1-3 普及と女性グループ

(1) 普及における女性グループの長所

普及対象から疎外されやすい女性にとって、女性グループに所属することは、普及サービスへのアクセスを高める効果的な方法である。普及員がグループに技術・知識を伝達する場合と、教会やNGOのグループに属することで、その組織の提供するサービスが受けられる場合とがある（村落調査では男女双方に、所属グループを通じて普及員にコンタクトするケースが見られる）⁴⁾。

農業普及において、実際に農業に携わっている女性が、普及サービスを受けられない場合、技術が効果的に伝わらず、普及効果が半減する。この点を克服するため、農牧省でも地域によっては、実際に農業に携わっている女性グループに別途技術指導を行っている。

KADPの普及員は、クリスチヤンの村では技術講習会の参加が男性だけで、また男性も講習後女性に技術を伝達せず、なかなか女性へ技術が伝わらないため、女性グループへの技術指導を別途行うという方法をとっている。

(2) 普及における個性グループの短所

6-1-2の(2)でも述べたように、女性には特別なインプットを与えることにより、男性からの反発、また、そのグループに所属できない他の女性からの反発を買うことがある⁵⁾。

また、農村調査における女性グループは、すべて収入創出活動をしていたが、そのためには資本金や会費などの経済的負担があり、その負担ができない女性たちは参加することができない。ある意味で、女性グループというのは村内でも「恵まれた」女性たちなのである。ここに外部の支援があれば、貧富の差を拡大する結果を生む可能性もある。

6-1-4 開発のインパクトと世帯内ジェンダー関係の変化

(1) 女性の収入向上と世帯内ジェンダー関係の変化

KADPの開発効果として、女性は水田での労働者(laborer)としての雇用が創出され、収入が向上した。また、米仲買人としての買い付けに携わる女性も多い（仲買人の90%は女性）。

女性の収入が向上したため、女性の経済的自立度が高まったのはよい効果である。しかし、これが必ずしも世帯内での男女関係の好転に結びつくとは限らない。タンザニア国（アフリカ全体も）では一般的に夫婦別会計制であり、家庭経営にかかる費用は男女双方が出

4) たとえば、サメ郡のンジョロ村での女性世帯主の世帯では、強制的に検査を行う保健官以外には何も公的機関普及員とのコンタクトはなかったが、教会グループを通じ手芸や野菜栽培技術を習得することができた。

5) ただし、イスラム教徒の村では、男女混合のグループでの指導しか行っていない。女性の割合は2~3割であり、技術も伝達されるとのこと。

し合って一つの家計から出すわけではない。したがって、男性は「おまえが稼いでいるんだから、その金で家計をまかなえばいい」という考え方で、世帯内での女性の地位向上につながっていない（KATCジェンダー担当官の見解）。

(2) 開発のインパクトと制度面でのジェンダー関係

また、KADPの開発効果が、労働の役割分担、土地その他の財産所有権についていかに影響を与えているかは不明である。財産所有権は、法的には平等ではあるが、実際には女性の財産所有権は非常に限られている。労働上の貢献と財産所有権の間に非常な乖離がある。そしてこれが女性の労働貢献と普及サービスの受益の乖離にも一因となっている。

農村調査の折、モシ、サメ両郡で、「財産は夫婦共有のもの」「処分の際には夫婦で相談」という回答が多かった。公式にはおそらく男性の所有権として登録されているのであろうが、この回答は何によるものか、単なる模範回答か、意識の変化が開発の効果として、または普及活動の効果としてもたらされたのか。原因を探る必要がある。

6-1-5 住民参加型開発とジェンダー

(1) 住民集会の二段階方式

NGOではもちろん、政府内でも住民参加型開発手法が採用されている（PRA、Appreciative Inquiryなどの手法の採用、住民集会の多用）。その中でジェンダー配慮としては、男女別ミーティングの開催がある。

住民集会で男女双方を招いても、実際に女性の参加は少ない。また、女性が参加しても、少数派のため、あるいは社会・文化的に女性の発言を歓迎しない理由から女性の発言が少ない。したがって、実質的に女性の参加を確保するために、男女混合集会の結果いかんにより、女性だけの集会を開催している。

(2) 二段階方式の長所・短所

女性だけの集会で、女性の意見を集めると同時に、女性たちの発言力・指導力養成を図ることができる利点がある。

一方、女性だけの集会を開催することで、女性を特別扱いしているという批判を受ける。これを回避するために、男女別集会を最初から開くのではなく、最初に男女混合にして様子を見た後で女性のみ集会を開催する手法が用いられている（森林養蜂局、KVFP）。

(3) 住民参加型開発とジェンダー配慮の留意点

参加型開発手法では、住民集会を多用し、当該コミュニティの自治機構を活用するが、

そのままでは既存の社会構造は温存されるというリスクがある。したがって、長老・男性優位の意思決定機構が維持され、意図的な介入なしには女性はエンパワーされない。

そこで、女性・少数民族・低カーストなど、非主流派の参加を確保する仕組みを創っていくことが重要である。

(4) 住民組織化とジェンダー配慮

住民参加による持続的開発の機構として、よく稲作組合や水利組合などの住民組織が設置される。しかし、これらの加入権・役員などのポジションは男性で独占されることが多い。KADPの稲作組合も、男性のみである。ここで実労働と代表権の不一致が起こる。女性にとっては意思決定過程からの疎外が起こる。

農牧省灌漑局のWomen in Irrigated Agriculture (WIA) プログラムでは、その点に留意し、灌漑農業者組合の委員レベルへの女性の代表を担保しようとしている。

住民参加でのジェンダー配慮は、女性集会を持つことや、女性みのプロジェクトを設置することだけではなく、生産・生活面の貢献の実態を反映した、開発活動への参加・意思決定のしくみの必要性がもっと考慮されるべきであろう。

6-1-6 組織的なジェンダー配慮のシステム化

(1) スタッフのジェンダー研修

タンザニアNGO組織の連合的組織であるTANGOでは、ジェンダー研修のプログラムをもっている。こういった外部サービスの活用をはかることが期待される。クライアントへのジェンダー研修はSNVが実際には実施している例があり、TANGOは研修を用意しているもののまだその実現には至っていない。

また、天然資源観光省森林養蜂局の職員研修ではジェンダーの講義が一部含まれている。また、現場レベルのスタッフに対しては地域開発・ジェンダー・文化省がCDOを通じてジェンダー研修とその概念の徹底を図っている。

(2) ジェンダー担当官の配置

開発の部署にジェンダー担当官を配置する例がFAO、KVFP、KATCで見られる。また、オランダのNGO、SNVでは、ジェンダー担当官を設置すると同じに各地の地方事務所に配置して、モニタリングを行うと同時にジェンダー・レビューを実施している。SNVのジェンダー・レビューでは、これらの活動から住民の生活レベルでのジェンダー概念の普及が著しいものとして報告されている。

(3) ジェンダー関連ユニットの設置

天然資源省森林局では、女性・NGO・学校班が用意され、また農牧省灌漑局では、「灌漑農業における女性」課が設置されて活動が実施されている。

(4) 女性団体NGOとの連携

地域開発・ジェンダー・文化省の地域開発官(CDO)のイニシアティブで、NGOを創設し、連携して活動している例が見られる。これがキリマンジャロ、モシにあるKIWODEAである。

—普及活動への女性の参加—
主要な問題の分析

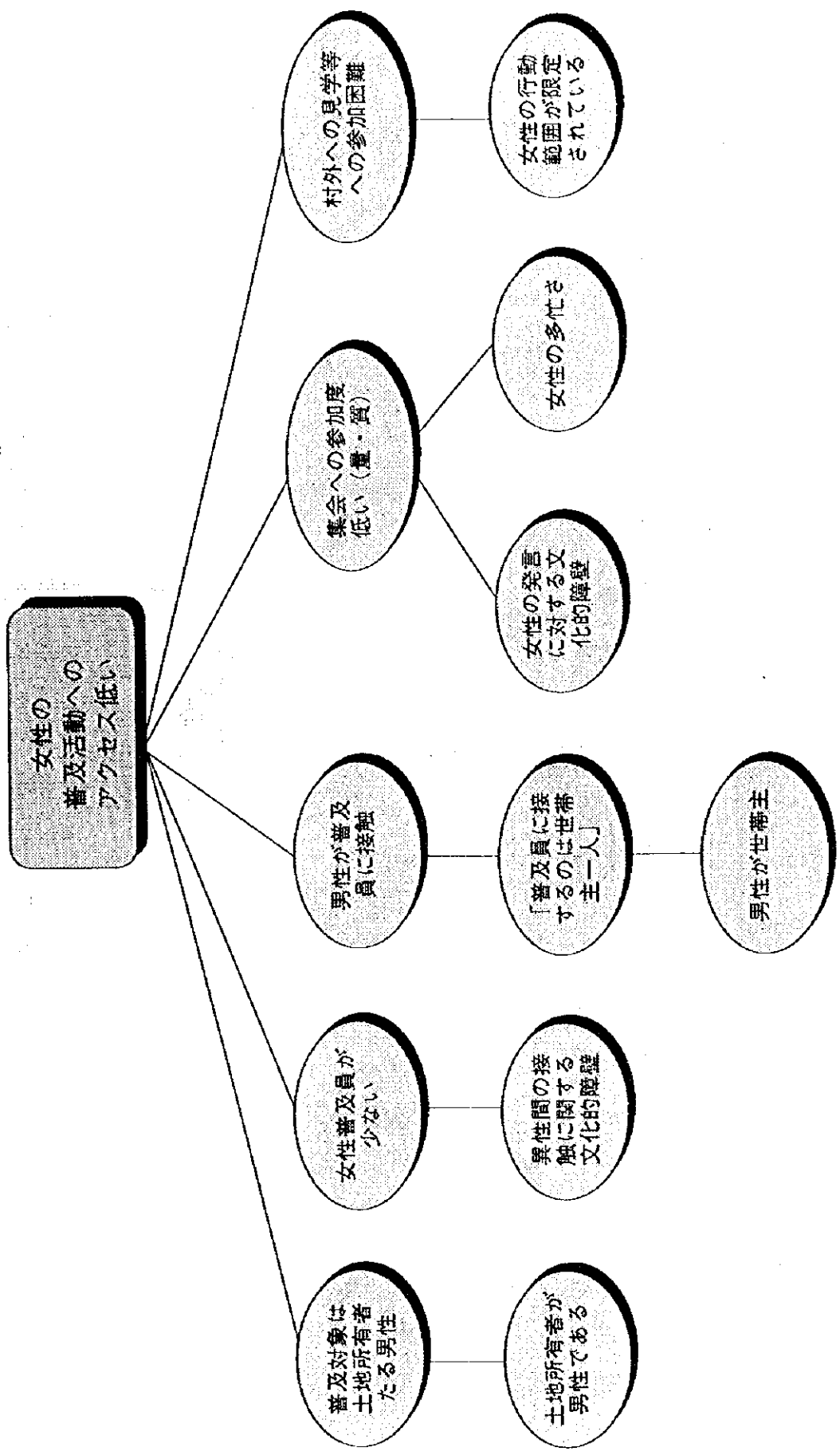


図6-1-1 普及活動への女性の参加に関する主要な問題の分析

—普及活動への女性の参加—
参加を高めるための方法

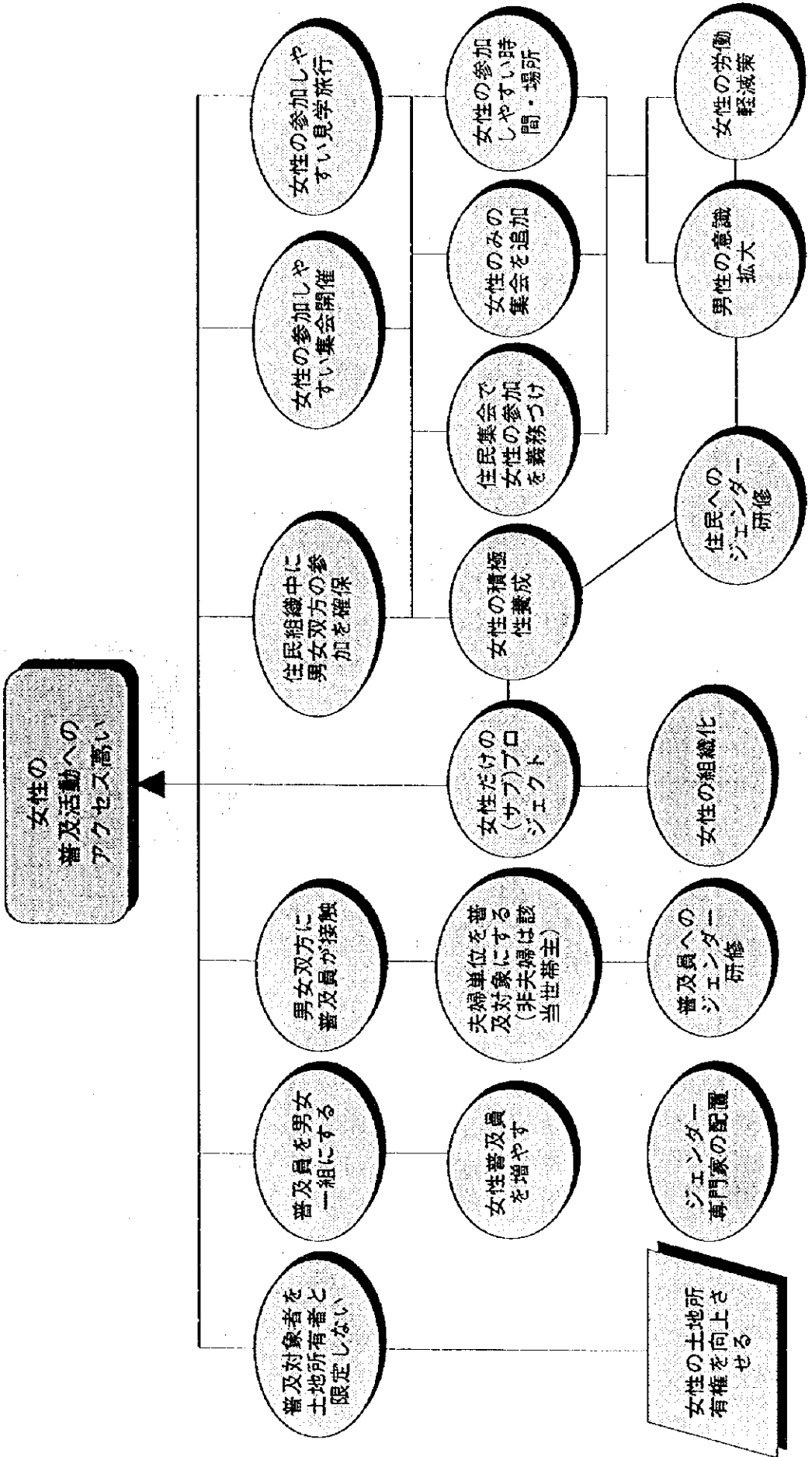


図6-1-2 普及活動への女性の参加を高めるための方法

6-2 普及活動が含まれた農業・農村開発計画の立案時の留意事項

タンザニア、キリマンジャロ地域で多様な普及活動の実態を非常に短期間であるが、ジェンダーや生活の視点を加えて不十分ながら制度や行政のレベルばかりではなく、住民のレベル、つまり、コミュニティ・レベル、世帯レベルに入り込み、今まで無視されがちであった農村女性の視点を積極的に組み込むように調査を試みてきた。1991年からスタートした農村生活の改善とジェンダーの問題をふまえた農業・農村開発計画のあり方を検討してきた膨大な基礎調査結果を背景に、以下のような取りまとめを述べる。

6-2-1 基礎調査による主要な知見

(1) 人間開発の考え方に基づくタンザニア国の開発政策

1990年代に入り、あきらかに開発途上国において農業・農村開発の具体的なあり方が変わってきたことは否定できない。それは単なるアプローチだけの変化ではなく、開発そのものの概念が大きく変化を示してきた。これはタンザニア国においても例外ではなかった。それには、ジェンダーという視点が開発に大きく導入されてきたことを契機にしているといっても言い過ぎではないようだ。

技術協力をキーに農業・農村開発を推進して農村地域全般の生活の向上を目指すと表現した場合には、おおむね新しい開発の考え方を農業・農村開発計画のなかに導入することはできるだろう。しかし、これまでのように新しい先進的「近代技術」が、この地平を一方的に切り開くことができるという考え方は、大きく後退したと断言していいだろう。つまり、科学技術が単独で存立するのではなく、それを支える人々の暮らしや人生観や生き方とかかわっていることを示している。

(2) 普及活動の効果が反映している

実際の開発の場面ではどうであろうか。農業・農村開発のレベルで見た場合、タンザニア国の調査でも普及活動を通じて、ほんのわずかな技術的工夫という普及員のアドバイスが住民の農業生産を目に見えて変化させる効果を示しており、そのような具体的な変化を住民のレベルでは歓迎しているという結果が得られた。しかし、注意したいのは、それが単なる生産性の向上、所得の増加に目標が置かれているのではなく、人々の住居の改築や新築、人間関係の改善といったものに対して評価しているということである。まさに具体的な個々の技術を改善、改良、革新していく事を通じて生活の質的向上をめざしていることを示していた。つまり、新しい技術の導入が、生産的技術の変化を通じて生活や社会の関係にまでその変化が反映して効果が発揮されることを物語っているのである。

(3) 人間開発とジェンダー概念の浸透

特に注目すべき回答として、自己の開眼やゆとりの創出、知的情報の拡大を指摘する回答が多いことがあげられる。また、新しい技術、知識を普及されたことで、家族、夫婦間や村内の人間関係がよくなったり、人間開発という考え方に対して「あまりにも模範的」と思われる回答ではあるが、普及のインパクトは物質的な面だけではないことが、読み取れる。ことさら普及活動に接触できた女性の発言が示すように家族計画が本当に素晴らしいことだと夫の前で発言し、その夫も妻の前でははっきりとそれを認め合ったという面接の過程を振り返って、ジェンダー的なアプローチがいかに重要な男女間のコミュニケーションに発展していくかを示す好例であろう。

(4) 住民参加を促進する人々の多様なニーズにつきあたる

こうした実態のあり方に関して、先進的「近代技術」が一方向的に開発過程で人々の暮らしの方向をリードしていくというステレオタイプ的な開発ではなく、より多くの人々が開発の過程に参加することが重要であり、それには、重要な人類のパートナーである男/女が均等に参加し得る基盤を作り出すことであり、それを推進するためには、多様な人々のニーズを受け入れるプロセスが農業・農村開発計画はもとより、すべての開発において必須の条件になってきていることを示している。

(5) 開発の考え方が変わり、開発官庁の名称が変化している

1990年代の後半になって顕著なあり方を示すのが、開発に関する官庁の名称が明らかに変わり始めたことである。それは、以上に述べたパラダイム転換を積極的に反映することを明確にしたネーミングである。ボリヴィアでは「人間開発省⁶⁾」という名称が用いられた。ここタンザニア国でも「コミュニティ開発・ジェンダー・文化省」という名称に少しづつ変わりながら至った⁷⁾。まだ、不十分ながらこのような考え方は、住民のレベルで行政がどのようなアプローチをしようとしているのかにおいて見出すことができる。

(6) セクター的な開発と生活総合的な開発の融合を

従来の農業省や農牧省、産業省、保健衛生省、教育省といったセクター的な、言い換えれば機能分化的な省庁枠組みにかわり、コミュニティに視点を置いた、総合的なアプローチを実施する省を加えることが試みられてきた。しかも、トップダウンではなく、人々の

6) Ministerio de Desarrollo Humano; Ministry of Human Development

7) これまで「コミュニティ開発・女性問題児童省 Ministry of Community Development, women's Affairs and Children」と称していた。

ニーズを前提にしたソフト型のものへの移行を模索したものである。水道や電機が村落の生活の中に入り込み始めたというような具体的な、開発の事例を見出すまでには至らなかったが、それでも、これらの新しい考えをもとに開発をどのような方向に向けようとしているのかははっきりと把握できた。

住民が参加する開発の模索は、多くのプロジェクトにPRA (Participatory Rural Appraisal) をどのように導入するか、住民のニーズをどのようにプロジェクトに組み込むか、男女が均等にニーズを発言できるプロセスの設定や得られたニーズの多様性をカバーしていく体制をどのようにつくるのかといった様々な問題点に及んでいる。そしてこの新しい問題群に対してやはり多くの試みが行われている。

(7) 多様で複雑な住民ニーズをどのように位置づけるのか

この中で現在のところ最大の問題点というべきものが、住民の参加によって得られてきた多様で複雑なニーズとプロジェクト目標との関連性をどう結びつけるかである。住民の参加は、一部の住民代表が加わればよいというわけではない。女性の参加は不可欠の前提であり、少数民族の人も、貧困層も、老人も、子供も、地理的に僻地にいる人もカバーしてニーズを取り出すことになる。そうして選抜されてきたニーズは、非常に多岐にわたり、対象とする分野が複雑に広がっていくことを示している。

(8) 多くの開発関係機関との連携を結ぶ

セクター的に決定されたプロジェクト目標と住民のニーズとの乖離が生じるのは、当然のこととなる。JICAのKATC並びにKVFPの農業・農村開発計画においてもプロジェクトの設定が、普及活動というソフトや広義の村落社会林業を扱う新しい形のプロジェクトであってもセクター的要素が大きいものである。PRAのように住民が参加する調査手法の出現は、住民のニーズが多様で複雑に固有の分化的要素と絡み合ったものであることを示すと同時に、その回答結果が住民自身においても明確化されて、開発担当者のみならず参加した住民全体にシェアされてしまう事実である。極端な話、用意されたプロジェクトは自分たち住民にとって本当に必要なものなのかを明らかにしてしまうプロセスを含んでいるのである。プロジェクトの自己否定である。PRAはまさにそのことを狙っているし、それをもとに開発の考え方自体が大きく変わってしまったのである。

KVFPでは、植林という活動が、住民のニーズをPRA手法のような住民参加を主体とする方法を採用すると住民が開発のプライオリティー意識を形成して、低位に押しやってしまうことを指摘している。つまり、植林よりも他にやってほしいことがあるというわけである。KVFPでは、これらの問題に対処するために「キリマンジャロ村落林業プロジェクト実

施体制」という他の関連機関との連携を推し進めている。これには国の出先機関、地方政府のみならず同じ地域で活動しているNGOも連携機関として組織化されている。このような体制をなぜ取るのかについて、プロジェクト側は、調査やワークショップを住民レベルにするほど多様なニーズが析出され、プロジェクトの用意する技術や対応をはるかに超えてしまうことになる。KVFPでは、このような住民の働きかけを無にするのではなく、多様な開発機関の連携で拾い上げていこうとする体制を作り、タンザニア国政府地方出先機関、地方行政体や地域で活動するNGOも含めて住民のニーズへの対応をはかろうとしている。

(9) 普及活動のフィールドレベルでの調整役割

これらの事態に対処するために、タンザニア国政府自身でも住民レベルの開発を推進するために普及関係者の連絡組織とその調整をする役割として「コミュニティ開発・ジェンダー・文化省」に権限を持たせ、その活動の中心者として地域社会開発官(Community Development Officer ; CDO)を調整役として位置づけた。ジェンダーの問題を扱い、活動内容が生活改善と似通っているためにKVFPではCDOの日本語訳に「生活改良普及員」という名称を当てているのも注目される。

(10) 望まれる普及活動でのジェンダー・アプローチ

住民レベルの普及活動の事例を不十分なながらも見てきた。現在のキリマンジャロ地域の農村生活レベル、農業生産レベルでは、わずかな技術の改良によっても目に見えて生産性が改善される段階である。それゆえに普及活動は住民に歓迎されているように見受けられた。しかしながら、ジェンダー視点から見た場合、普及活動に対するアクセスは、男性優位であり、経済的富裕層の接触頻度が大きい。また、グループ活動参加者の接触頻度も大きいことが判明した。普及活動が十分な条件で行われることが望まれるが、わずかな財政など人員の不足、アクセス手段の未整理など多くの条件を抱えた中で住民全体に均等に接触できるようにすることは至難の業である。

しかしながら、KATICが大きく導入しようとしている普及研修過程にジェンダーの概念を基本的に位置付けて、少なくとも男性と女性の間の接触格差をうめようとすることは十分に可能ではないだろうか。そのためには、ジェンダー問題を扱える専門家や女性普及員の増員など優先的に実施しなければならない事項はあるだろう。

6-2-2 計画立案時に特に配慮すべき事項

(1) 社会構造を配慮したジェンダー固定につながらない工夫の必要性

オランダ政府系NGOのSNVでは、伝統的灌漑改善計画(TIP)というユニークな活動を進

めている。これには、プロジェクトが進行しはじめてからWIDの視点を加えたり、それをジェンダー視点に発展させたりして、現在の段階に至っている。その報告書をみても、灌漑の水管理活動の中心である配水計画の責任者に女性が従事するなどの変化が生まれ、これまで女性の仕事だった家事・育児などの仕事(水汲みだけは男性は抵抗しているようであるが)を分担するようになった事例が報告されている。

農村・農業開発計画では、目に見えにくい女性の活動を明確に調査をしてその役割分担を農業生産の側面だけではなく、農村生活全体の視点で捉え直さないと女性に大きな負担が生じてしまう。チエケレニ・ウエルウエル村での女性グループの活動では、アクティブな女性の活動に対して男性が昼間からローカルワインを集団で飲んでいる光景に出くわしたが、なんとこの酒場を経営しているのも女性グループであるという。これだけの見かけ上の出来事で判断は難しいが、女性の活発な活動もどのような活動するのかによって、女性ジェンダー固定につながりかねないのである。

(2) ジェンダーと社会構造を配慮して農業・農村開発計画を進める

1992年に実施したケニアでの基礎調査では、一夫多妻制が問題になった。この複婚をなくそうとするときに、反対するのは女性であることは、過去から変わっていない。女性は複婚によって家事育児の重労働の負担を軽減しようとするように制度を変えていったふしがある⁸⁾。実際にケニアの農耕民女性の生活は農業の一切が女性に任せられ、男性は複婚であれば同居をしない。子供の面倒も妻がみなくてはならず、その中で家事も社会的な活動もしなくてはならないという現状を変えない限り、開発への参加は、このような複婚制度を固定化するように働くことが指摘されている。

開発がジェンダー固定を促進するのである。農業・農村開発計画の立案時には、このような文化的背景が、配慮されなくてはならない大きな事項である。しかも、従来の調査方法では女性の活動はなかなか把握が難しく、女性の隠れた資源認識や資源の利活用などの実態を見落としがちになってしまう。農業・農村開発計画において女性の参加がタンザニア国のように不可欠であると考えるところは、今後も多くなって、具体的な途上国の要請事項となってくる。これには、基礎調査で実際に試みてきた生活資源カタログ調査手法を核とした農村生活総合調査手法(Baseline Survey)を短期調査のレベルで十分に実施することが重要である。

女性の参加がしやすいように、女性の活動を差別化しないようにという消極的な方法ば

8) 国際協力事業団、1993。『農村生活改善のための女性の技術向上基礎調査報告書(ガーナ・ケニア)』

かりではなく、農村女性の活動を積極的に評価するようなプロジェクト立案も必要になる。その場合にも女性のみがそれに参加するのではなくジェンダー視点を基礎とした男女の共同参画を推進することが肝要である。SNVの活動評価にもその点が報告書で指摘されている。

(3) セクター的農業開発計画と生活総合的な農村開発の統合をめざして

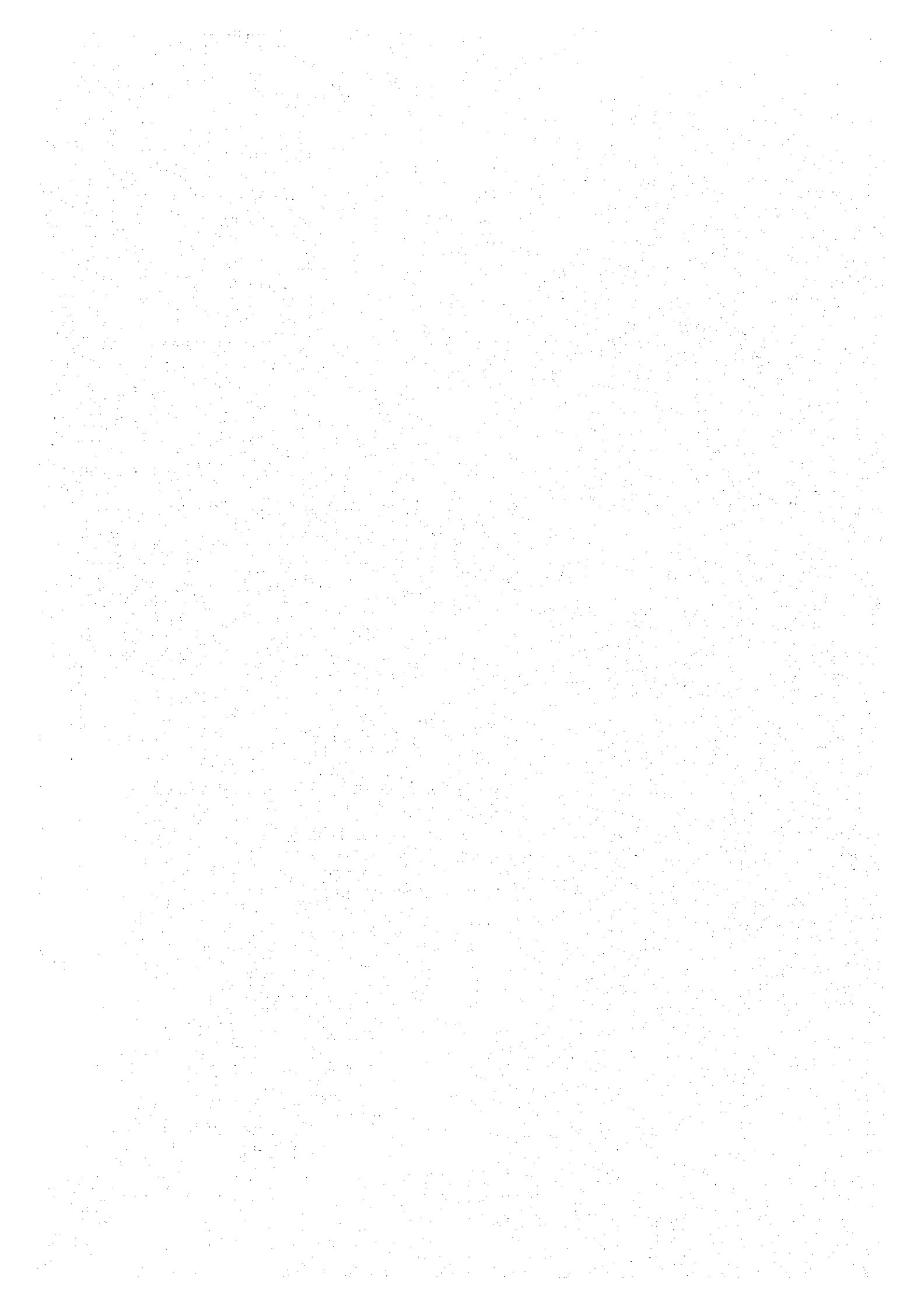
セクター的な農業・農村開発計画が否定されるのだろうか。人間開発という新しい開発概念が登場して、本来の人間優先的な開発のあり方が具体的に示されるようになってきた。生活の改善だけでプロジェクトを立案することも重要である。しかし、女性の配慮が、女性が担っている活動を明確化することに始まるとすれば、ほとんどの農業・農村開発計画にはジェンダーの概念が導入され、食料増産や灌漑、農業機械においてもそれを推進していくことが要求される。

セクター的な開発計画が、特定技術の普及をめざすのに対して、生活総合的なジェンダー配慮が可能な普及は、多くの住民のニーズを吸収できる可能性をもつ開発計画である。セクター的な特定化された技術の普及対象は、限られた社会経済層になってしまい、それはジェンダーの概念が入りにくい、社会全体から格差を作り出すように働くことになる。マクロ計画におけるセクター的な考え方は、大規模なほど大きな効果を示して行くことは一概に否定できない。それならば、セクター的な開発と生活総合的な開発を組み合わせたものの有効性を追求することが求められるのではないだろうか。

まさにプロジェクト自体をジェンダー化した農業・農村開発計画を創出することが求められるのである。

APPENDIX

普及活動調査結果(世帯調査分):キリマンジャロ州モシ、サメ群 1997. 12



CHEKERENI Village
DEMOGRAPHY

Initial of informants	K+ S		I		G				
	f	m	f	m	f	f	m		
age	58		60	58	48	56	40	30	52
tribe	Chaga		Makonde	Makonde	Nyiramba	Nyiramba	Pare	Pare	Pare
religion	Christian		Christian		Christian			Muslim	
family size	12		12		9			16	
education	Std. 3		Std. 2	Std. 6	Std. 7	Std. 3	Std. 7	Std. 7	Std. 8
Agriculture:									
yields of last cropping									
paddy	● 36bgs		● 25bgs		● 34bgs			● 108bgs*	
maize	● 24bgs		● 25bgs		● 15bgs			● ?bgs	
beans	● 0.5bgs		-		-			-	
ground nuts	-		-		-			-	
sunflower	● 16bgs		-		-			-	
banana	-		-		-			-	
vegetable	-		● for home		-			-	
finger millet	● 4bgs		-		-			-	
cassava	-		-		-			-	
Livestock									
cow	2		1		8			22	
sheep	4							9	
goat			3		4			17	
chicken	20		15		8	+duck		12	
duck			4						
other economic activities	Local brewery		agr. Laborer		W's. Group activities			middle-woman	
Group	UWT-Village, Chair UMATI, advisor vegetable production, Grp WAWATA, Chair		Church group	CHAWAMP (member)	Village W's group	10 cell leader None	Vegetable W's G. credit shop group		Red Cross Livestock production unit
Remarks	Tanzania women's asso. Family planning G. Church women's G		KADP farmers' asso.		Preparing donuts&scorn for selling and paddy prod'n				
Yrs. of Residence	27		41		18			23	
class	rich		poor		fair			fair	
property ownership	Woman's head of HH		Chickens	Farm+House Son,cow & goats					
inheritance	From her husband								

*can be the harvest of more than 1 season

CHEKERENI Village
Extension Activities

● : contact through his/her groups
village meeting = village meeting attended by extensionists

Initial of informants		K+ S		f		f		C	
		f	m	f	m	f	f	m	
Extensionist Agriculture ○ Livestock ○ Forestry ○ Health ○ Community Dev. ○ NGO [● KCMC ¹] UMATI Others Remarks	[● KCMC ¹] UMATI ¹ Kilimanjaro Christian Medical Center(1979-1995) ² In 1974, extensionist came in for restoration of village damaged by flood. 1982-, w/KADP, more ext'nists settled in the village.	○ ○	○ ● ¹ ○		○ ○				○ ¹ ○ ²
Participation reason ○ Every time ○ most of the time △ Some times	As a head of the Ht. ² When h'sbd was alive, he contacted extensionists.	△	◎	◎		○		◎	As a leader.
Barriers to active participation	None		If too many men, cannot talk because p'ple criticize w'men who speaks up.	None		None			Need so long time for meeting (Problem of transportat'n)
Interesting	Learning of new method		All	Prevention of livestock disease. Field demonstration		Tech. Info			Educating himself esp. AEO.
Useful	Almost everything		All advice	How to prevent problems		Transplanting Fertilizer Chemical Pesticide			Good seeds Chemical Cultivation
Useless	Provided seedlings did not grow. Livestock improvement ² .		There are some.	None		None			None
Sharing	From group to group. Neighbors		Female neighbors	In family male neighbors esp. about farming.		Home town ppl, he teaches.			W/ relatives in home
Impact	Agr. Product'n ↑ Enough food Children edu ↑ Teaching what she did not know when she was young. Better relations w/ neighbors.		Farms created Pple have new knowledge Enough food Employment Neighbors help each other.	Building a new house. More ppl are building new houses in village.		Agricultural Productivity ↑ Attitude changes. Life great improved. Relationship w/fmly & Ne'rs : harmonious			Agricultural Productivity ↑ ↓ decrease calf's death. Children's Edu. Man's att'd toward agr. changing. Income ↑
Other source	mostly extensionists.		W's meeting. Village meet'g	Usually from exts during meeting.		Except family and relatives.			All but except school, church market.

CHEKERENI WERU WERU Village

DEMOGRAPHY

Initial of Informants	M		J+J		T	
	f	m	f	m	f	m
age	(absent)	61	52	59	59	57
tribe		Nyakuyusa	Pare	Gogo	Mgonni	Chaga
religion	Christian		Christian		Christian	Christian
family size	12		9	1	4	6
education		No school Adult Edu.	std. 6	std. 1	No school	std. 10
Agriculture:						
ld in last cropping						
paddy	●	35bgs	●	10bgs	●	8bgs
maize	●	45bgs	●	15bgs	●	7-8bgs
beans	●	1bgs	●	1bgs	-	0
ground nuts	●	8bgs	●	6bgs	●	40bgs
sunflower	●	2bgs	-	-	-	-
banana	-	-	-	-	-	●
vegetable	-	-	-	-	-	few
finger millet	-	-	-	-	-	-
cassava	-	-	-	-	-	●
cassava	-	-	-	-	-	100kg/acre
Livestock						
cow	8		1		3	
sheep						
goat	4		7		9	
chicken	8		7			
duck						
other economic activities	none	watchman of primary school	selling veg + G/nuts	Agr. laborer	None	None
Group	W's Group in village	10cel leader Village committee member	W's Group Church Grp	Church Grp	Church Grp W's Group	Church health grp.
Residence (year)	27		38		38	
Class	fair		poor		fair	
Property	Joint		Joint	all but joint decision making joint	House Land 4acre	
Inheritance	Not inherited, obtained				from her parents husband had no property	

*L. Roche 2nd wife
low dist. stock
understanding*

USA 1/1/77

CHEKERENI WERU WERU Village
Extension Activities

● : contact through his/her groups
village meeting - village meeting attended by extensionist

Initial of Informants	M		J+J		A		T	
	f	m	f	m	f	m	f	m
Extensionist							(absent)	
Agriculture		○ ¹	○	○	○		○	○ ¹
Livestock		○ ²		○ ¹				
Forestry								
Health		○			○		○	○ ²
Community Dev.								
NGO			○ ¹ (UMATI)					
Others		○ ³ (AICAF)		○(AICAF)				
Remarks		¹ (-97,9) ² No service for 4yrs. ³ Tanzanian + Japanese	¹ No contact those year					¹ KADP officer include ² OHO
Participation reason		⊙ Because it is a village gov't message.	⊙ Eager to learn. Manage schedule	⊙	○			⊙ Health club act to be good Health, planting fruits, keep sanitation.
Barriers to participation		None	None Both F-M are encouraged to talk freely. Wife was a teacher, not shy.	None	Sickness, she cannot attend meeting.			Transportation
Interesting		New Tech. matters	New tech. for rice prod'n of P. Technology	New tech. for rice prod'n	Getting chance to learn. Develop of own home.			New knowledge
Useful		Everything, esp. sanitation	UMATI's lecture, calendar.	Rice prod'n skills.	Planting with string to line. Fertilizer Tree grow up			Protecting tree for health
Useless		None			None			None
Sharing		W/in family w/ neighbors	Family at seminars.	Family at seminars.	W/ church grp.			Neighbors
Impact		Diseases ↓ Family relations ↓	Rice cultivation change. Agr. Production ↑ Way of thinking became wider	Became broad-minded	Productivities ↑ Production ↑ Agr/Health activities improved. Relationship village ↑		Agr. productivity ↑ Profit ↑ Life is improving Thinking development	Fruits production ↑ Multiusages of tree. Be selected best farmer.
Other source		Imitate neighbors tech	Mainly from exts. and common senses.		Church poster/leaflet Ext. agents		Village elders Church Neighbor	Except school market radio poster/leaflet

**NJORO Village
DEMOGRAPHY**

Initial of informants	Si		M		A+ J		S	
	f	m	f	m	f	m	f	m
age	56	64	(absent)	70?	38	40	31*	
tribe	Pare	Pare	--	Pare?	Pare	Sambaa	Pare	
religion	Christian		Christian		Christian		Christian	
family size	9		8		8		4 (all women)	
education	class 8	class 8	-	class 10	class 7	class 4	class 4	
Agriculture:								
yield in good year								
paddy	-		-		-		-	
maize	● 10bgs/acre		● 8bgs/acre		● 70-80bgs		● 90bgs	
beans	●		●		● 5-8bgs		● 25bgs	
ground nuts	-		-		● 18bgs		-	
sweetpotato	-		●		-		-	
cowpea	●		-		-		-	
banana	-		-		-		● 15buckets	
coconuts	-		-		-		-	
cotton	-		●		-		-	
Livestock								
cow	20		7				6	
sheep	1		4				13	
goat	20		5				10	
chicken	90		10-20		only for home		100	
dug								
other economic activities	none		local brewery		none		local brewery	
Group	MWAKO TUGURO	none	none	none	WAWATA (church Women's group)	none	WAWATA	
Residence (year)	60		18		15		Mon > 20yrs Daughter 0.5yrs	
class	fair		fair					
property inheritance					joint not inherited		f (informant's mother) not inherited	

NJORO Village

Extension Activities

● : contact through his/her groups

village meeting=village meeting attended by extensionists

Initial of informants	Si		M		A+ J		S	
	f	m	f	m	f	m	f	m
Extensionist								
Agriculture		○		○ ●	○	○ ¹		
Livestock	○	○						
Forestry	○	○		○ ¹		○		
Health	○				○	○	○	
Community Dev.	○							
NGO								
Others					●		● ¹	
Remarks					¹ Study tours: man participates		¹ At WAWATA Church Diocese advisors (F) on sewing and horticulture activities.	
					² As of this couple, whoever available sees ex'nists at home.			
					³ f/m attends village meet'g together			
Participation reason							◎	
(C) Every time (X) Part of the time (A) Sometimes				None		None	Easy to attend (time, place)	
Barriers active participation	Sickness	None		Far away (meeting)	Feel uneasy to speak up in meetings with men.			
Interesting		Benefit of tree planting		Village development	Active participation of women (at WAWATA)	All	Sewing Horticulture	
Useful		Plant tech. Keep livestock		Different type of seeds	Boiling water Sanitation	Planting in line.	All	
Useless		None		None	Use of fertilizer planting sorghum planting cotton		None	
Sharing					Husband Neighbors	Wife Neighbors	Family & Women neighbors	
Impact					Health condition ↑ Children's edu. ↑ discussion in family No hunger in village	Productivities ↑	Agr. productivity Profit ↑ Life is improving Thinking development	
Other source		Emphasized extensionist		Meeting by Extensionist		All essentially agr. ext'n'st	Village elders Church Neighbor	

**BENDERA Village
DEMOGRAPHY**

Initial of informants	S		O		A+ S		K+ S	
	f	m	f	m	f	m	f	m
age	32	40	38	36	38	40	41	63
tribe	Pare	Pare	Pare	Pare	Zigno	Sambaa	Pare	Pare
religion	Muslim		Muslim		Muslim		Muslim	
family size	8		6		9		7	
education	Std. 7	Std. 7	Std. ?	Std. 7	Std. 7	Std. 7	Std. 7	Std. 8
Agriculture:								
yield in good year								
paddy	● 0		● 0		● 30bgs		● 20bgs	
maize	● 20bgs/acre		● 15bgs		● 15bgs		● 15bgs	
beans	● 2 tins		● 0		● 5bgs		● 5bgs	
ground nuts	-		-		-		-	
sweetpotato	-		-		-		-	
cowpea	●		-		● 10bgs		● 4bgs	
banana	-		-		-		-	
coconuts	-		-		-		●	
coffee	-		-		-		● 500kg	
Livestock								
cow	8				3		Their relatives is taking care of it.	
sheep	1				9		number of livestock: unclear	
goat			3		10			
chicken	20		15		30-40			
duck								
Other economic activities	none		driver (class C)		none		none	
Group	KAMERO	none	none	IMARA Young group	Flour mill group (Leader)	Sub Village Leader Agr. G. in village	Flour mill group	Religious Leader
Residence (year) class	? fair		6 fair		Since they were born		24	
property inheritance					joint From both Fathers + Obtained		joint inherited + obtained	

**BENDERA Village
Extension Activities**

● : contact through his/her groups

village meeting = village meeting attended by extensionists

Initial of informants	Si		O		A+ S		K+ S	
	f	m	f	m	f	m	f	m
Extensionist								
Agriculture		○ ¹		○ ●	○	○	○	○
Livestock					○	○	○	○
Forestry	○	○		○ ¹			○	○
Health	○	○	○ ● ²		○	○	○	○
Community Dev.					●	●		
NGO					CDTF ●			
Others							SAIPRO, CDTF	
<i>Remarks</i>	¹ He knows existing E. Activity, but have not contacted.		¹ Village meeting by FO Wife emphasized. ² Implementation of Family Planning, she have got free time.		○: Mostly through Village Meetings AF+M usually attend V-meeting together.		○: All extension at village meetings Seminars, home visits: depend on discipline of extension. F+M attend V-meeting together	
Participation reason					○ No problem to attend. older children look after younger one.	○ Duty as the sub-village leader.	○ Importance	○
Barriers to active participation	Sickness	none	none	none	none Do not feel shy in the meeting w/men	none	none Got used to be active in meetings	none
Interesting	tree planting	Educational activities HO. Envment. FO. benefit tree planting	Modern tech increasing	Modern tech increasing	Successful application	New ideas	Given advice	
Useful		Sanitation Benefit of tree planting	Family planning	Tech. upgrading	Use of fertilizer Vaccination for children	Use of fertilizer	Raising seedlings Nursery techniques. Proper use of milling machine	
Useless		none	none	none			Use of fertilizer	
Sharing	Husband	Wife Villagers through Village M.	Family P. with husband	His friends	With those who did not attend village meeting (F→F, M→M/F)		With those who did not attend the village meeting Wife-Husband	
Impact		Better tree Thinking change to be good Relationship with husband	Getting enough time Getting thinking capacity Living better	Tree growing well Productivity increasing Getting enough time	Agricultural Productivity Health condition ↑ Life is better Villagers started to build modern houses.		Better houses Life improved in general	
Other source		School thru children Radio		Village gov. officer	Radio Magazine	Esp. extensionist	Mosk Village meeting Neighbor	

JICA